

# 左岸溢水対策の検討状況(報告)

---

平成30年3月

近畿地方整備局 淀川河川事務所

京 都 府                      京 都 市

国土交通省近畿地方整備局  
淀川河川事務所長 東出 成記 様

## 桂川嵐山地区河川整備計画に対する地元意見及び要望

桂川嵐山地区では、平成24年度の桂川嵐山地区河川整備検討委員会及び地元連絡会の発足以降、世界的にも愛される景観地として、また、国の史跡・名勝に指定された日本人の心の郷里として、現在の景観を基本としながら、より良い景観を実現することができる河川整備について議論してきました。その間、平成25年台風18号の被災をうけ、地域住民の心情を察した行政判断が必要と考え、地元の議論の場として設置した地元検討会においても、地元の声を交えた意見をとりまとめてきました。

桂川嵐山地区河川整備についての地元の基本的な考え方として、住民・事業者・来訪者の人命・財産を守ることを考えながら、現在の景観を引き継ぎつつ、より良い景観の創出につながるような整備が進められることを望んでおり、現在、検討されている整備計画について、以下のとおり要望します。

### I 堆積土砂の撤去と河床掘削

- (1) 渡月橋上下流における堆積土砂の撤去が必要であり、土砂の堆積を少しでも防ぐ方策を考えることも必要である。その都度堆積する土砂に対し、必要に応じて随時実施することが望ましい。
- (2) 渡月橋下流から松尾橋にかけて堆積している土砂が流れを阻害し、景観的にも問題があるため撤去を望む。但し、撤去により川の流れがスムーズになることで、下流域や採原堤への影響がないよう、慎重な検討が必要である。
- (3) さらなる河床掘削については、渡月橋の外観変貌や強度不足が生じないよう、検討しながら行うこと。

### II 中之島の開削

- (1) 地元連絡会では島自体が大きく削られるイメージがあり、開削反対としていたが、より良い景観の創出につながり、水と親しむ憩いの場としてなど、各種の催し等にもなるべく支障がないような開削計画の検討を要望する。但し、具体的な計画については、開削の範囲や規模、開削後の外観イメージ等を丁寧に説明したうえで、あらゆる角度からの検証等により、議論を継続する必要がある。
- (2) 中之島の開削においても、川の流れがスムーズになることにより下流域や採原堤 (特に嵐山小学校や嵯峨美術大学付近) への影響がないよう、慎重な検討が必要である。

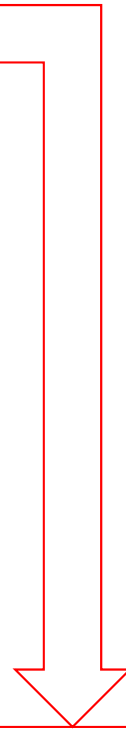
### III パラベットの設置

- (1) 固定式パラベットの設置及び道路の嵩上げは、景観や現状の建物に及ぼす影響が極めて大きいため、受け入れられない。
- (2) 景観を第一にしながら、安心・安全を考えるものとして、普段は存在せず、必要な時に現れることで景観が損なわれることがない、可動式(可搬式)パラベットの検討を要望する。
- (3) 昭和18年の洪水以降に設置した現状の堤防についても、景観に溶け込むような再整備が必要である。
- (4) パラベットではなく、土地の嵩上げにより高さを確保することで越水を防ぐことが可能な箇所(臨川寺公園など)については、景観に大きな影響を与えない整備の検討を行うこと。

### IV ソフト面の整備

雨量・水位等について、常時情報を発信できるシステムを構築し、その都度正確な情報を知ること、避難や建物を守る準備を早期に始めることができるような、ソフト面の整備を要望する。

以上の内容を十分に検討し、また、これ以外の有効な治水対策についても景観に配慮しながら検討を進め、地元へ提案していただくことを求めます。今後も地元との議論のうえで、整備が進められることを求めます。



・必要な時に現れることで景観が損なわれることがない、可動式(可搬式)止水壁の検討を要望  
 ・現状の堤防も景観に溶け込むように再整備が必要

歩道と河川の間、0.5mほどのスペースがある





老朽化したパラペットが一の井堰から船着き場にかけて存在。







## 考え得る可動式・可搬式の特殊堤の事例

(平常時)

平常時は地面に扉体を格納



(平常時)



平常時は地面に扉体を格納

(出水時)

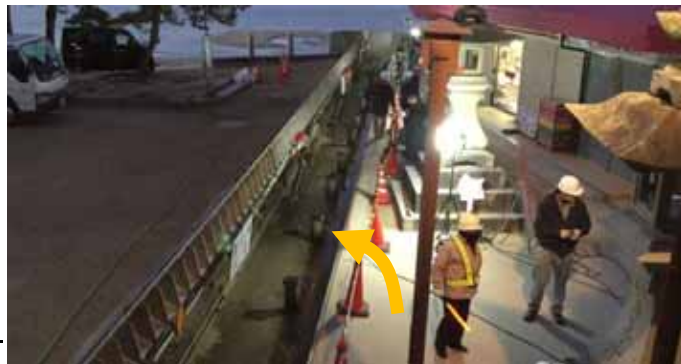


出水時に扉体を立ち上げ

可動式：垂直起立式防潮堤

(出水時)

出水時に扉体を立ち上げ



可動式：回転起立式防潮堤

(平常時)



平常時は支柱のみ存置

(出水時)



出水時にパネルを支柱にはめ込み

可搬式：畳堤(モバイルレビー)

## 施設計画上の制約条件・・・計画高水位

計画高水位は、**将来的にその水位以下で洪水を流下させることができる**よう設定された水位。  
したがって、計画高水位以下の範囲は将来的に**洪水が流れることが前提**。  
上記をふまえ、計画高水位以下は、**不確実性を排除した止水機能**を持つ構造物を計画。

## 景観面

- ・ 嵐山の景観に配慮し、よりよい景観を可能な限り保全する
- ・ 普段は存在せず、洪水時に現れる可動式の止水壁とする
- ・ 老朽化したパラペットについても、一体的に再整備する

## 観光面

- ・ 観光面での嵐山の魅力を高める整備とする

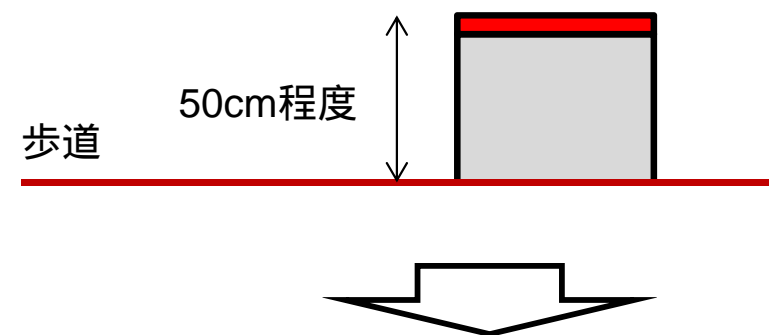
## 安全面

- ・ 可動化による不確実性を可能な限り排除しつつ、操作になるべく労力をかけない構造とする



一の井堰下流の歩道横に、計画高水位の高さ（道路から最大で高さ50cm程度）での連続した可動式の止水壁を設置。  
出水時には天端面を立ち上げ、必要な高さを確保。

(平常時)



(出水時)

